

バンクーバー便り 24～『卒業式』

バンクーバー時間：2024年6月29日土曜日午後12時30分

日本時間：2024年6月30日日曜日午前4時30分

皆さんこんにちは。バンクーバー便り 24 をお届けします。

今回はランガラ大学 Langara College の卒業式についてお話をします。9月から新学期が始まる北米では6月は卒業式のシーズンになります。家内が通学していたランガラ大学でも6月20日(木)11時から Downtown にある Queen Elizabeth Theater で卒業式が行われました。欧米で行われる卒業式は映画などで何度も見たことがありますが、実際に参加するのは初めての経験でした。

エリザベス女王劇場は 2929 席を設置して 1959 年に建設され、今は亡き英国女王エリザベス 2 世が同年 7 月にコンサートを楽しまれたことで名付けられました。この歴史から想像されるように、劇場内ではゆったりとした座り心地の良い赤い客席と天井には豪華なシャンデリアが満天の星空のように燦然と輝いています。バンクーバー交響楽団の本拠地として、またその他の音楽会、オペラ、バレエなどの公演劇場として利用されてきました。

卒業生の家族や関係者は 1 階会場の左右両翼に座り、中央には卒業生の座る席がロープで仕切られて空席にしてありました。私と娘は左翼の舞台近くに席をとりました。立派な会場に啞然としながら周囲を眺めまわしていますと、私たちの前席から日本語が聞こえてきました。卒業生の母親と姉が式に参加するために日本から来られたとのことで、子どもの晴れの姿を見たいと願う家族の思いに遠路ご苦労様ですと心の中でつぶやきました。

卒業生は 500 名くらいでしょうか、欧米の大学卒業式でみられる academic dress (ロープ)をはおり mortarboard (角帽)を被った姿は威風堂々として威厳のあるものでした。また首にかけるストラの色は学部ごとに異なっています。看護学部は紫色でした。最初、学生たちは劇場 2 階席に集められ、卒業式の始まりを告げる華やかなファンファーレが会場いっぱい響き渡る中、2 階席から 1 階中央席に卒業生たちが学部ごとに行進する様子は、タンホイザーの行進曲の舞台を彷彿させるものでした。卒業生が全員着席した後、突然、太鼓とよくとおる歌声が聞こえてきました。それは民族衣装に身を包んだ indigenous people が会場背後から入場する行列でした。彼らは卒業生席と家族席の間の通路を舞台に向かって進みました。そして全員が舞台上に上り、族長とおぼし初老の男性が英語で挨拶をしました。カナダでは事ある毎にこの地が先住民の土地であったことを伝える催しが行われます。

開会と共に、司会役の先生による進行で、女性学長や来賓の人々が次々と挨拶をされました。その後、学部ごとに卒業生一人一人の名前が呼ばれ、舞台上で学長と握手、ハグ、撮影をして舞台を降りていきました。最後の卒業生が終わるまでに随分と時間がかかりましたが、学長と並んだ卒業生たちの笑顔が輝き、見る者に大きな感動を与えました。尤も学長はその間、ずっと立ちっぱなしで相当にお疲れになったことと思います。

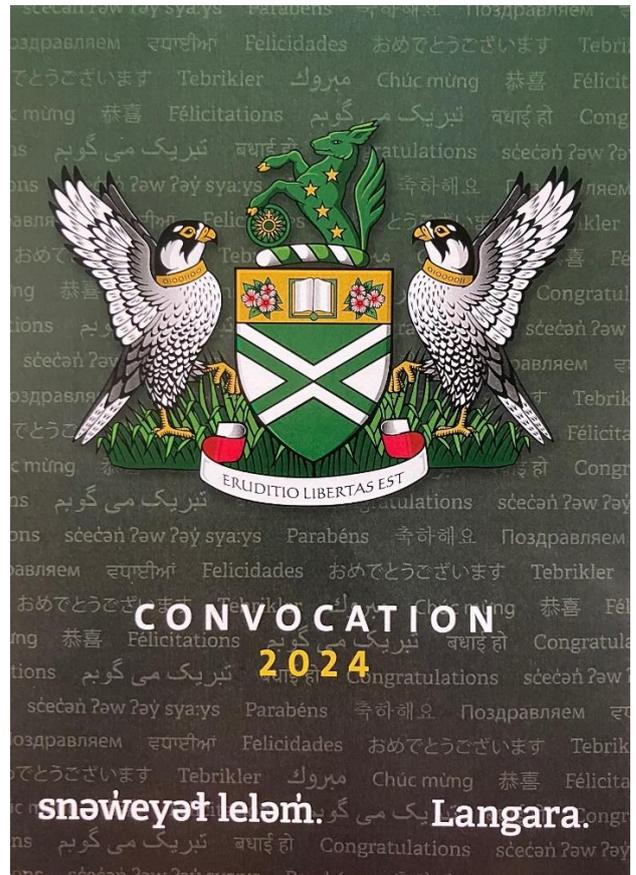
卒業生たち全員が席に戻ってから、舞台上からカメラマンが中央席に並ぶ卒業生の集合写真を撮影しました。そしてカメラマンの合図で恒例の帽子投げが行われました。卒業生が極限の大音声を放つために、開式前に全員で発声練習をしていた記憶が蘇りました。



《学長から家内への卒業祝辞と記念撮影》



《卒業式後の家族撮影》



《卒業式招待状》

